

事務事業評価表（令和2年度）

事業コード	2250	課コード	1602	会計種別	一般会計	予算の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 政策 <input checked="" type="checkbox"/> 経常 <input type="checkbox"/> なし
-------	------	------	------	------	------	-------	---

1. 事業の概要 (PLAN)													
(1) 事業概要	①事業名	基本事業 文化財の保護・活用	実施計画への位置づけ		○有 ●無		②部課名	生涯学習部・文化・スポーツ課					
	③事業主体	●市 ○その他 ( )	④対象地区		○我孫子 ○天王台 ○湖北 ○新木 ○布佐 ●全市								
	⑤事業期間	令和2年度～令和5年度		⑥担当職員数	4人 (換算人数)		0.13人						
	⑦事業費 (人件費含む)	総事業費	0千円		当該(開始)年度	(当初)	1,712千円 (うち人件費 1,131千円)		(変更後)	千円 (うち人件費 千円)			
	⑧施策の位置づけ	施策コード	53301	重点プロジェクトへの位置づけ	重点2		基本計画地区別計画への位置づけ	○有 ●無		部門別計画への位置づけ (計画名)			
(2) 目的	施策目的・展開方向	我孫子市の歴史や文化、風土をより身近に感じ、ふれあってもらうため、指定文化財制度や登録文化財制度による文化財の保存をより強化します。また、手賀沼文化拠点整備計画に基づき、史跡などの文化財を計画的に整備してネットワーク化を進め、その活用と魅力の向上に努めます。				事業目的	我孫子市内の文化財を計画的に保存・活用し、次世代への継承をはかるため。						
(3) 事業内容	内容	市内に数多く存在する史跡や文化財をネットワーク化し、魅力を向上させて、次世代に継承していく仕組みとして、平成19年度に「手賀沼文化拠点整備計画」を策定し、この整備計画に基づき、先導的に我孫子駅南東地区を中心として平成30年度まで史跡の保存、整備などを実施した。今回の文化財保存活用地域計画は、手賀沼文化拠点整備計画の基本理念と合致するものであり、かつ、市全体を対象とした計画である。この計画を策定することによって、史跡の計画的かつ継続的な保存と活用につなげていけるものです。				当該年度執行計画	協議会を組織・運営し、文化財保存活用地域計画を策定する。 5月 協議会 (計画完成) 6月 認定申請 9月 協議会 (認定結果) 1月 協議会 (進行管理)						
		当該年度活動結果指標	文化財保存活用地域計画協議会の開催回数		単位	回	想定値	3		実績値			
(4) 達成目標 (期待する成果)	達成目標 (期待する成果)					指標種類	指標		単位	(5) 現況値	(6) 目標値		
当該年度	文化財保存活用計画の策定					直接	文化財保存活用計画の策定		%	70	100		
令和3年度	文化財保存活用計画の策定・進行管理					直接	文化財保存活用協議会の開催				3		
令和4年度	文化財保存活用計画の進行管理					間接	文化財保存活用協議会の開催		回		1		
(7) 事業実施上の課題と対応	協議会委員として参加する関係各課の協力のもと、計画を策定する必要がある。					代替案検討	○有 ●無						
(8) 施行事項	実施内容 費用	平成31年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度					
		政策	内容	金額(千円)	政策	内容	予算額(千円)	決算額(千円)	政策	内容	金額(千円)		
		*: 文化財保存活用地域計画策定協議会報償費		140	文化財保存活用地域計画協議会報償費 (補助金対象)		53		文化財保存活用地域計画協議会報償費		53	文化財保存活用地域計画協議会報償費	18
					* 旅費 (文化庁) (補助金対象)		123						
					* 文化財保存活用地域計画報告書印刷製本費 (補助金対象)		284						
			* 文化財保存活用地域計画概要冊子印刷製本費 (補助金対象)		121								
			合計		581			合計		53	合計	18	
(9) 財源内訳	国庫支出金	補助率	0%	0	補助率	99.5%	578	補助率	0%	0	補助率	0%	0
	県支出金	補助率	0%	0	補助率	0%	0	補助率	0%	0	補助率	0%	0
	起債	充当率	0%	0	充当率	0%	0	充当率	0%	0	充当率	0%	0
	一般財源			140		3			53		18		0
その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他		0	□特会 □受益 □基金 □その他		0	□特会 □受益 □基金 □その他		0	□特会 □受益 □基金 □その他		0	
(10) 人件費等	換算人数(人)	0.03		0.13		0.13		0.13					
	正職員人件費	264		1,131		1,131		1,131					
	嘱託職員報酬額	0		0		0		0					
	臨時職員賃金額	0		0		0		0					
事業費(予算(決算)額+正職員人件費)	404		1,712		1,184		1,149						
(11) 単位費用 (事業費/活動結果指標)	101千円/回		570.67千円/回										

2. 事業の評価 (DO+CHECK)										
(1) 事業が今必要である理由・背景は？ (事業の必要性)	事前評価					事後評価 (評価結果に応じ、改善案検討 (拡充も含む))				改善検討
	文化財保存活用地域計画を策定することにより、市内文化財の現状把握、今後の保存・活用見通しを立てることができ、計画的な保存・活用につながる。					○①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった  <想定どおりとした理由/想定どおりでなかった原因>				○要 ○不要
(2) 市が実施する必要性はあるか？ (市実施の必要性)	●①民間企業、NPO、市民団体等では実施できない (理由) ■法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他		<その他の内容>			□①民間企業、NPO、市民団体等では実施できなかった □②市が主導で進めなければ実効性がなかった □③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他		<市実施の具体的な内容・必要性の理由>		○要 ○不要
	○②自治体である市が推進すべきである (理由) □市が主導で進めることにより実効性が得られる □市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他		<その他の内容>			<その他の内容>		<その他の内容>		○要 ○不要
市民の参加や市民との協働を工夫しているか？ (体制づくり)	参加・協働の内容		工夫の具体的な内容			実施した参加・協働の具体的な内容 (又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容)		参加・協働の程度・内容		○要 ○不要
	●①事業計画時に市民の参画有り ○②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他		計画策定時に市民の参画あり					○①当初期待した以上 ○②当初期待したとおり ○③当初の期待以下  <期待した以上となった理由/期待以下であった原因>		○要 ○不要
環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点		取組む内容			実施した具体的な内容		環境への配慮		○要 ○不要
	■①自然環境を生かしている □②生き物と共存している □③手賀沼を意識している □④環境負荷低減に貢献している □⑤その他		手賀沼周辺の自然環境を加味したうえで、計画の策定を行っている。					○①想定どおり ○②想定どおりでなかった  <想定どおりでなかった原因>		○要 ○不要
(1) 目標設定は適切か？	現況値 (a) (%)	目標値 (b) (%)	目標値の妥当性のチェック			達成状況	○①目標値達成 ○②目標値未達成		○要 ○不要	
	70	100	□①客観的なデータ・事実に基づき設定している ■②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象がある場合、比較対象例における目標値 (と現況値の差) と同等の水準である			実績値 (f) (%)	達成率 (%) (f/b × 100)	<目標を達成した理由/未達成となった原因>	○要 ○不要	
(2) 事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減		実施予定の対策			実施状況		○①想定事業費未済 ○②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過		○要 ○不要
	事業費 (c) (千円)	事業費削減額 (d) (千円)	□①国・県助成制度活用 □⑤PFI等民間資本の活用 ■②現行体制での対応 □⑥受益者負担 □③維持管理費の削減策の実施 □⑦その他 □④民間委託			実績値 (g) (千円)	対事業費 (%) (g/c) × 100	○①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった  <想定どおり削減できなかった原因>		○要 ○不要
(3) 目標値を実現するために投じる事業費は適正か？ (目標対費用)	目標値対事業費 (e)		計算方法			達成状況		○①目標値以上 ○②目標値と同程度 ○③目標値以下		○要 ○不要
	5.84		●①単年度の指標：目標値 × 費用単位 / 事業費 ○②複数年度の指標：(目標値 - 現況値) × 費用単位 / 事業費			実績値 (h)	対目標値 (%) (h/e) × 100	<目標値以上となった理由/目標値以下であった原因>		○要 ○不要

3. 事後評価										
○現状どおり推進 ○拡充 ○縮小 ○結合 ○休止 ○廃止 ○事業手法見直し ○その他(事業完了など)										
評価	評価コメント					改善策及び展開方向				